

# じゃがいもプロジェクト

## じゃがいもプロジェクトとは？

剣淵町の農業は、農地が整備されるとともに米をはじめ、小麦・大豆・小豆・いんげん・馬鈴しょ・甜菜・野菜など、今では多種多様の農産物が生産されるようになりました。しかし、多種多様なだけに農産物と町を結びつけるイメージもあいまいになっている状況にあります。近隣の和寒町は「南瓜」「越冬キャベツ」、幌加内町は「そば」が名産となっていますが、剣淵町においても多くの農産物の中から町を代表する農産物を町の「名産品」と位置づけ、その付加価値を高めていく必要があります。

農産物の中でも「じゃがいも」は、開拓時代から剣淵の農業はもちろんのこと、地域住民の生活を支えてきた農産物です。地域の寒暖の差から生まれる「じゃがいも」は、道内の有名産地には負けない美味しさがあります。また、姉妹都市の締結した町のある南米のペルー国は「じゃがいも」の原産国でもあります。

こうしたことから、平成25年度から「じゃがいも」を剣淵町の名産と位置づけ、地域の農業、商工業、観光など、まちの活性化を図ることを目的に、じゃがいもに関連した事業を『じゃがいもプロジェクト』として取り組んでいくことになりました。

## 「けんぶち」と「じゃがいも」

剣淵町は、上川北部では作付面積が1番の産地であり、昭和44年(1969年)までは1,000ヘクタールを超える面積がありました。過疎化や少子高齢化の進行などによる農業者の減少や農業政策の変遷などから、現在では面積も約260ヘクタールまで減少していますが、上川管内でも美瑛町、富良野市、上富良野町に次ぐ産地となっています。

## 平成25年度事業の内容

- ① じゃがいもによるイベントの実施  
道の駅で行われるイベントにあわせた事業の実施
- ② じゃがいも食文化の継承、普及  
町内で受け継がれているじゃがいもを利用した料理や食べ方のレシピ化と試食会
- ③ 剣淵産じゃがいもの啓発  
剣淵町で作付け、生産されているじゃがいもの特徴などをまとめ、剣淵産じゃがいもを紹介
- ④ じゃがいもプロジェクト事業の啓発  
じゃがいもプロジェクトのPR など

## じゃがいもプロジェクト実行委員会

実行委員長	剣淵町長（佐々木智雄）
副実行委員長	JA 北ひびき副組合長（後藤強）、剣淵商工会長（松ヶ平昭治）
監査	剣淵農民連盟書記長（佐藤宏和）、JA 北ひびき剣淵基幹支所長（酒井鉄哉）

実行委員会は、町・町議会・JA 北ひびき・商工会・観光協会・農民連盟・農業改良普及センターで組織し、各機関・団体の代表 10 名が実行委員となっています。また、生産振興会、JA や商工会の青年、女性部、町内加工グループなどの代表による推進部会をおき、事業を推進していくことにしています。



# けんぶちじゃがじゃがデー

9月21日・22日、道の駅絵本の里けんぶち7周年記念イベントにあわせて「けんぶちじゃがじゃがデー」が道の駅で開催されました。当日は、じゃがいもづくしの楽しい企画が行われました。



## 蒸かしいも無料試食

蒸かしいもの無料提供を行い、子どもから大人まで多くの方に召し上がっていただきました。



## いも拾い競争

10秒間にじゃがいもを何kg拾えるか競争するゲームを行い、参加者は「がんばれ」と応援を受け、賑わいを見せていました。



## ジャガビンゴ

じゃがいもの品種の書かれたビンゴカードには珍しいじゃがいもの名前が並び、参加者は「こんなに種類があるとは知らなかった」と驚いていました。

## じゃがいも袋詰め放題

詰め放題に参加されている方が楽しそうにじゃがいもを詰めている姿が多く見られました。



## 道の駅絵本の里けんぶち7周年記念イベント

じゃがじゃがデーと同日、道の駅絵本の里けんぶち7周年記念イベントが道の駅で行われました。

会場にはたくさんのグルメテントが並び、野菜の詰め放題やお菓子撒き、チアリーディングなどが行われ、町内外から多くの方がイベントを楽しみました。